

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

実際にオープンキャンパスに参加してこの同志社女子大学の雰囲気がいかに良く、施設も充実しているところから志望校に決まりました。また、食物栄養科学科のカリキュラムに京都府立の授業もあり、とても魅力の一つだと思います。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

1学期の前半は部活が忙しか、そのため多くの教科には手を付けず、国語・数学・英語の3教科を中心に勉強しました。後半は、理科と社会を勉強し始めました。夏休前はどの教科も基礎固めの徹底をしていました。特に数学科目は復習は必ず足る引、ほろの、早い段階で対策するべきだと大切にしています。また、受験用に新しい教材は買わずに、持っている教材を繰り返し解きました。

〔夏休み〕

センター試験で使わない教科はマーカーで、二次試験で使う教科は記述形式で勉強しました。数学は記述形式の場合、条件を書く必要が与える勉強に時間がかかると、私は夏休みから勉強しました。私は文化祭の実行委員と、忙しかったため、夏休みは準備が完了した後は勉強時間を確保できました。そのため、単語カードを常に持ち歩き、隙間時間を有効に使い補っていました。他にも、生活リズムを一定に保ち、勉強するという習慣を崩さないために学校や塾に毎日通っていました。

〔2学期～入試直前〕

この時期は毎週のように模試があり、その復習と自分の弱点がある分野の勉強をこなすようにしました。苦手分野の勉強はどうしても時間がたつため、時間制限を設けることで他の科目にも影響が出ないようにしました。また、苦手教科は教科書を読み返すことが多かったため、質問は教えるところ、これを直接教科書に書き込み、オリジナルの参考書のようにして勉強していました。

学校でセンター試験対策の授業が始まると、その復習で精一杯でいることが多くその日のうちに一回目の復習と週末、休日、二回目の復習をしていました。センター試験前は時間が足りないうえ、休みの時間も常に勉強していました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

部活があった頃は土日練習試合はよくあり、本格的に勉強したいとは思っていません。高校の行事については、私は文化祭の実行委員というところもあり、夏休みにあがり勉強ができたところから夏休み明けの模試で満足いく結果がとれていました。そのため、夏休みの努力次第でその後の成績も大きく変わるといえます。

健康面では、一日7時間の睡眠を取り、極力夜更かしをしないように心がけていました。

テレビは朝にニュースを少し観るくらいで、それ以外は観ません。スマートフォンも必要最低限の連絡以外は見ていないため、1日10分を見ているくらいです。

勉強はすぐに結果に表れるものではないので、スランプであっても継続して勉強するべきだと大切にしています。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験生は、勉強の計画をしっかりと立て計画通りにいかないし、成績も思うように伸びないことが多くあります。ですが、最後まで諦めずに勉強すれば良い結果を得られると思うので頑張ってください。私の合格体験記が少しでも皆さんの役に立つことを願っています。